

サステナブル学習プロジェクト

藤井 今年度、戸頭小学校・中学校をモデル校としてサステナブル学習プロジェクトをスタートしました。杉浦先生には講師を務めていただいています。

杉浦 サステナブル学習は、2000年代以降の環境教育やSDGsなどの流れの中で生まれました。課題解決型学習や、環境・社会・経済をとともに維持することを考える学習などが複合的に重なったものになります。

福田 杉浦先生の授業を児童も楽しみにしています。児童へのアンケートでは、環境教育に関心のある割合が、先生の授業を受ける前と比べて約20%増えました。環境問題の解決を望んでいる割合も約10%増えています。



※3 バイオマスプラスチックとは植物などの再生可能な有機資源を原料とするプラスチック。石油などの化石燃料の使用削減、焼却時に排出されるCO₂の抑制につながります。

授業では、児童から、スーパーマーケットでのごみの分別の仕方や、レストランで紙ストローやバイオマスプラスチック(※3)のストローが使われていたことなどの報告がありました。多くの発見や気づきがあったようです。

杉浦 それが行動変容のための第一歩です。指導者が「あれやれ、これやれ」というのではなく、自分で気付くことが行動を変えるきっかけになります。

藤井 杉浦先生の授業以外の時間で子どもたちの行動に変化はありますか。

福田 常総環境センターに社会科見学に行った際に、どの児童もメモをとりながら一生懸命取り組んでいる姿が見られました。また、教室の中でもごみの分別に気を付けるなど、自分なりに問題意識をもって取り組もうとしている児童が増えてきていることが、非常に大きな変化だと感じています。

藤井 サステナブル学習が、保護者との対話を促進するきっかけになっている面もあるでしょうか。

福田 夏休みの宿題で「身の回りのSDGs探し」や「一週間SDGsを意識した生活」に取り組んでもらいました。保護者からのコメントには「自分から進んで電気を消したり、ペットボトルをリサイクルに出してくれたりしました」、「環境について学校で学んだり、自分で調べたことを教えてくれて親も学ぶことが多かった」というものがありました。SDGsについて詳しくは知らないという保護者も、子どもの言動を受けて、一緒に取り組もうという良い流れができていると感じます。



戸頭小学校でサステナブル学習の授業を行う杉浦先生

◆サステナブル学習プロジェクトの四つの方針

- ① 地球温暖化の緩和策や気候変動への適応策を地域目線で考え、環境、社会、経済の問題も統合して考える視点を身に付ける
- ② 学校外でのフィールドワークで地域課題に触れ、近未来に起こり得る事象と対応アイデアを創出する力を身に付ける
- ③ タブレットを使って、情報を共有しながら価値を創り上げるICTスキルを身に付ける
- ④ 大学生やシニア層との共創の時間もつくり、多世代に共感される物事の視点を身に付ける



戸頭中学校でのサステナブル学習の授業風景

地域に合わせた取り組みを

藤井 市では、フードロスへの取り組みとして、昨年10月にレンコン、ニンジン、ダイコンの皮をむかずに使った学校給食を提供しました。また、大人にも経験してもらうため、福祉施設2カ所で同じメニューを提供しました。そのように、新しいテクノロジーではなくても、日常の工夫でできることを発見すると、行動が変わり、想像力も身に付くのではないかと思います。

福田 市内でも地域ごとの特徴があると思います。地域に合った取り組みを自分たちで考えて発展していけると、SDGsもさらに広がりを見せますよね。



杉浦 その意味では、先生や大人が作り過ぎないことが重要だと思います。地域にいる人・ある文化から出る発想に対して寄り添って、「とにかくやってみる」という土壌を育てることを考えていくべきですね。

サステナブル学習プロジェクトでは、子どもたちが調べたことに対して、筑波大学と茨城大学の学生がアドバイスをくれる取り組みをしています。多様な知識が集まることで面白い何かが生まれることを期待しています。

福田 大人はいろいろと教えがちですが、子どもたちのやってみたいという気持ちを後押ししてあげることが大切です。

市民の皆さんへのメッセージ

杉浦 私からは三つあります。一つ目は、世界規模の脱炭素の動きはここ20年で加速してきた話です。我々大人は、子どもの頃に学んだ常識を変える必要があります。二つ目は、サステナブル学習プロジェクトは、全国でも先行的な学びの事例です。先行すると注目を浴び、資金も人も集まります。自治体や住む人の愛着、誇りも高まります。ぜひ子どもたちと一体となって活動してください。三つ目は、SDGsの計画には17のゴールのほかに、前文や宣言文などがあり、その中に「世界を変えるのは若い力だ」という言葉があります。子どもたちの可能性を信じて、やることを肯定してあげてください。

福田 戸頭小学校では、今後発信型の活動をできるだけ行っていきたいと考えています。地域を巻き込んで子どもたちがいかに主体的に学んでいくのか、これからの学習をととも楽しみにしています。学校は失敗ができることです。子どもたちには、成功も失敗も含めて自分の成長の一つとして考えて、自由な発想でいろいろなことにチャレンジしてほしいと思います。

藤井 市としては、2050年までにゼロカーボンシティを実現するために、市内の企業や関係団体などと密接な情報交換をしながら、できることから取り組んでいきます。市民の皆さんには、自分だけでなく、家族や地域に関わるみんなにとっての幸せという観点から、自分にできるSDGsや脱炭素の取り組みを模索してもらいたいと思います。



▶鼎談の様子を動画で公開

鼎談の様子は、動画でもご覧になれます。
※鼎談とは、3人で向かい合って話すことを意味します。

